

**ビデオアートの25年  
上映スケジュール**

会期中(毎日・月休)下記のスケジュールで上映  
プログラム1(10:30-)  
プログラム2(12:20-)  
プログラム3(14:30-)  
プログラム4(16:20-)  
後開館日は3(毎週木曜)および4(毎週金曜)を再上映  
プログラム3(18:20-)  
プログラム4(18:20-)

**プログラム1：性と因習(91分)**

フランキー・ティアドロップ  
トハティ/ロビンソン/デアーク  
1978年/12分  
皮膚の下  
チェチュリア・コンディット  
1981年/12分  
ファウストの幼類：想起  
ダラ・バーンバウム  
1983年/10分  
趣味のよい靴  
ジョン・アダムズ  
1983年/11分  
快感  
サディ・ベニング  
1990年/11分  
スプラッシュ  
トマス・アレン・ハリス  
1991年/7分

**プログラム2：自分を語る声(113分)**

ミッチェルの死  
リンダ・モンタノ  
1978年/23分  
笑うワニ  
ファン・ダウニー  
1979年/27分  
私がテレビにはまっていたら理由  
イレヌ・セガロフ  
1983年/10分  
飲ませてくれなさいたずらするよ  
ヴァナリン・グリーン  
1984年/21分  
広がりゆく真紅  
ジョージ・クーカー  
1987年/13分

**プログラム3：メディアとプロセス(94分)**

ビデオテープ スタディ No.3  
ナムジュン・バイク/ジャド・ヤルク  
1967-69年/4分  
歯と歯の間  
ビル・ワイオラ  
1976年/9分  
エンド・オブ・エム・エム  
1979年/3分

レーク プラシッド'80  
ナムジュン・バイク  
1980年/4分  
偶然の出来事(多くのパートのうちのパート1)  
ケイリー・ヒル  
1982-83年/7分  
ボイス・ウインドウズ  
ステイナ/ラ・バーバラ  
1986年/8分  
ウアクティ・ボレロ  
エデル・サントス  
1987年/7分

アート オフ メモリー  
ウッディ・ヴァスルカ  
1987年/36分30秒  
滝(垂直的風景)  
MICA-TV/ブレア/グラハム  
1988年/6分30秒  
ネオ・ジオ：アメリカの買物  
ビルジャー・キーン  
1989年/9分

**プログラム4：パフォーマンスと身体(99分)**

26の初期作品  
ウィリアム・ウェグマン  
1970-75年/35分  
台所の記号論  
マーサ・ロスラー  
1975年/6分  
オー・スーパーマン  
ローリー・アンダーソン  
1981年/8分30秒  
イアー・トゥ・ザ・グラウンド  
フィッツジェラルド/サンボーン/  
ヴァン・ティエム  
1982年/4分

アメーzing グレース三部作  
(たたえよ/歩め/与えよ)  
ビルジャー・キーン  
1986年/8分30秒  
ベルリン/ウエストーアンデレ・リヒトウゲン  
スチュアート・シャーマン  
1986年/6分  
モダンダンスの神話  
チャールズ・アトラス  
1990年/26分  
スリープ ナウ ヴァリエーションズ  
パメラ・ジェニングス  
1992年/5分

**EIZO EXPLORER：草創期から現在まで  
上映スケジュール**

会期中毎週末のみ(5:31、6:1をのぞく土・日)ホールで上映  
プログラムA(12:40-)  
プログラムB(14:30-)  
プログラムC(16:00-)

**プログラムA(95分)**

天利 道子  
BIO-TIDE 3  
1993年/13分  
伊奈 新祐  
FLOW-1  
1983年/10分  
稲垣 貴士  
Fake Flick  
1989年/5分

邱 世原  
A・UN  
1985年/2分13秒  
水野 哲雄  
「…?ET?」  
1984年/8分25秒  
永田 修  
The Monument  
1989年/4分30秒  
大山 麻里  
Between the Twilights  
1985年/5分  
斉藤 信  
Frame by Frame (DO-OR,TO-W-ER)  
1984年/8分  
佐々木成明  
Toller Pole  
1985年/7分  
島野 義孝  
CO-RELATION  
1983年/8分  
篠原 康雄  
Pyramid  
1983年/3分  
寺井 弘典  
1½  
1984年/6分50秒  
ビジュアル・ブレインズ(大津はつね+風間 正)  
REC ZONE  
1986-88年/6分28秒  
山口 保幸  
INNER MIRROR  
1983年/7分  
**プログラムB(82分)**  
出光 真子  
おんなのさくひん  
1973年/10分  
清子の場合  
1989年/25分  
加恵、女の子でしょ!  
1996年/47分  
**プログラムC(105分)**  
松本 俊夫  
マグネチック・スクランブル「薔薇の群列」  
1969年/105分

すべて字幕なし  
上映時間は若干ずれることがあります



**Video Art: The First 25 Years**  
Images and Technology Gallery Exhibition

映像工芸館作品展  
ビデオアートの25年

関連上映:日本のビデオプログラム  
**EIZO EXPLORER：草創期から現在まで**  
Japanese Video Program related to "Video Art: The First 25 Years"  
**EIZO EXPLORER:from the early days to now**

**1997年4月6日(日) - 6月1日(日)**

会場=地下1階映像展示室 および1階ホール  
(※日本のビデオプログラムはホールで土・日のみ上映)  
開館時間=10:00 - 18:00 (木・金曜日は20:00まで)入館は閉館時間の30分前まで  
休館日=毎週月曜日(月曜日が祝日または振替日の場合はその翌日)  
主催=東京都写真美術館 協力=AFA、ニューヨーク近代美術館  
観覧料=一般・大学生500円(400円) 小・中・高校生250円(200円)  
※上記観覧料には、関連上映鑑賞料と3階常設展示室の観覧料を含みます  
企画・常設・映像工芸館展共観覧料=大人1000円(800円) 小・中・高校生500円(400円)  
いずれも( )内は20名以上の団体料金  
小学生未満、65歳以上の方、および障害のある方とその付添人1名は無料となります  
(証明できるものをご持参ください)

This exhibition is organized by the American Federation of Arts.  
The AFA media arts exhibitions are partially supported  
by the National Endowment for the Arts and the New York State Council on the Arts.  
展覧会のお問い合わせ=ハローダイヤル 03-3272-8600  
インターネット http://www.tokyo-photo-museum.or.jp

関連上映:日本のビデオプログラム  
**EIZO EXPLORER：草創期から現在まで**  
Japanese Video Program related to "Video Art: The First 25 Years"  
**EIZO EXPLORER:from the early days to now**

日本プログラム解説・オーガナイズ：  
瀬島久美子(ビデオアートコーディネーター)  
Japanese Program organized and commented by Kumiko SEJIMA  
(Video Art Coordinator)

<b>プログラム：A</b>	<b>佐々木成明/SASAKI, Naruaki</b> Toller Pole 7min 1985 カメラを不安定で高い位置に取り付けること によって、ダイナミックな視覚世界を獲得し ている。	「清子の場合/Kiyoko's Situation」 25min 1989 表現し、創造するエネルギーを持った女にと って、主婦としての生活は苦痛となる。表現 の場を見出すことができ次第に追いつめ られていく女の心の葛藤が、モニターの入れ 子関係によって鋭く映像化されている。
<b>天利 道子/AMALI, Michico</b> BIO-TIDE 3 13min 1993 漁師の生活風景を織りまぜ、自然と人間の呼 吸の響きあいをドキュメンタリータッチで描 いた作品。	<b>島野 義孝/SHIMANO, Yosataka</b> CO-RELATION 8min 1983 撮る個と撮られる個の映像を並列し、視覚情 報の倍加を試みる。	「加恵、女の子でしょ!/KAE, Act Like a Girl」 47min 1996 シモーヌ・ド・ボーボワールの「第二の性」 に着想を得た作品。作家の妻であり、母であ る女が家事と創作活動の狭間で悩み、同じ画 家である夫との性差に傷つく。女を取りまく 社会環境のクールな描写と、プロジェクター を利用した斬新な表現手法が、作品に説得力 を与えている。
<b>伊奈 新祐/INA, Shinsuke</b> FLOW-1 10min 1983 自然の流れがさまざまなエフェクトによって 美しい映像の流れに変換されている。	<b>篠原 康雄/SHINOHARA, Yasuo</b> Pyramid 3min 1983 人類のテクノロジーとその歴史を精緻な映像 によって再認識させる。	<b>プログラム：C</b>
<b>稲垣 貴士/INAGAKI, Takashi</b> Fake Flick 5min 1989 フェイクに溢れた社会に対する怒りの叫びが 作者の美学によって個性的な映像と音に昇華 されていく。	<b>寺井 弘典/TERAI, Hironori</b> 1½ 6'50min 1984 2台のカメラと、ふたつの目がとらえる世界 の差異を映像化。	<b>松本 俊夫/MATSUMOTO, Toshio</b> 「マグネチック・スクランブル」(映画「薔薇の群列」) /Magnetic Scramble (Movie "Funeral of Roses") 105min 1969
<b>邱 世原/KYU, Seigen</b> A・UN 2'13min 1985 プリリアントなセンスでつくられた、映像と いうよりは作曲といえるビデオ作品。	<b>ビジュアル・ブレインズ(大津はつね+風間正)/ Visual Brains</b> OHTSU, Hatsune+KAZAMA, Sei) REC ZONE 6'28min 1986~88 映像は現実を忠実に録画し、且つ再生できる という現代社会の錯覚を風刺した作品。	日本で初めての大規模なビデオの展覧会は、 1972年に開催された「DO IT YOURSELF KIT」であったといわれているが、その4年 前1968年、松本俊夫はモニターの画像を磁石 で重めた日本初のビデオ表現「マグネチッ ク・スクランブル」を制作し、1969年の「薔薇 の群列」の一場面にその作品を登場させた。 60年後半の社会的現象と潮流を独自の映像美 学に基づいて作品化した「薔薇の群列」には時 代の芸術が色濃く反映され、「マグネチッ ク・スクランブル」は若者達がテレビ画面を ぐにゃぐにゃと歪ませて撮影する場面に登場 する。実験映画「エクスタシス」(1969年)の 一部もこの映画に使われている。 またこの作品には、写真家や演出家、デザイ ナーや評論家など各界のアーティストたちが 協力出演している。次々と登場する豪華かつ 意外な顔ぶれから、大阪万博を前にした60年 代のパワーを感じることができる。 今回は「薔薇の群列」全編を上映。
<b>水野 哲雄/MIZUNO, Tetsuo</b> 「…?ET?」 8'25min 1984 即興的で斬新な表現手法が、日本では目あた らしく楽しい。	<b>山口 保幸/YAMAGUCHI, Yasuyuki</b> INNER MIRROR 7min 1983 モノクロの穏やかにたゆとう画面が鏡の中の 物語を想起させる。	
<b>永田 修/NAGATA, Osamu</b> The Monument 4'30min 1989 アポロの成功を見て思いつき、作者を映像に 向かわせた原点。	<b>プログラム：B</b>	
<b>大山 麻里/OHYAMA, Mari</b> Between the Twilights 5min 1985 光が日本的感覚でデザイン化されている墨 絵のような作品。	<b>出光 真子/IDEMITSU, Mako</b> 「おんなのさくひん/What a Woman Made」 10min 1973 1973年に出光真子が初めて手掛けたビデオ作 品。モノクロの美しい映像の背後で男の声 が女の子の育て方や性差を語り続ける。男に語 らせることによって、他者が女の人生を規定 してしまう社会環境を浮き彫りにしていく。	
<b>斉藤 信/SAITO, Makoto</b> Frame by Frame (DO-OR,TO-W-ER) 8min 1984 断片的で多様な視点を連続させることによっ て、見る概念が再構築されている。		

**Video Art: The First 25 Years**  
Images and Technology Gallery Exhibition

映像工芸館作品展  
ビデオアートの25年

映像工芸館では、テーマ展「記録としての映像」にあわせて、作品展のシリーズ「時と空間の記憶」を開催します  
人間が視覚に対して求めるものの中には、特定の場所と時間を再現してくれる、記憶や記録の手段としての映像があります。視覚的な記録を重要な手がかりにして私たちは昔を回顧したり、未来を空想することができるのです  
シリーズの第1回は、「ビデオアートの25年」と題して、1960年代に生まれてから今日まで、大きな隆盛を見た海外のビデオアートの回顧展を行います。本展はニューヨーク近代美術館で1994年に開催されたもので、1967年のナムジュン・バイクから80年代のウッディ・ヴァスルカやローリー・アンダーソンらの作品、そして90年代初頭までの32作品が紹介されます。また、同展にあわせて、日本のビデオアートの草創期から現代までの表現についてもホールで上映し、紹介します。松本俊夫監督作品「薔薇の群列」とそこに挿入された「マグネチック・スクランブル」をはじめ、貴重な日本作品を鑑賞する機会となります  
現在のデジタル映像全盛期以前に、どのような映像表現が展開されていたのか、ひとつのメディアとしてのビデオアートについて、もう一度考えてみましょう